「世界で一番オカリナが盛んな国は韓国。
イタリアでは意外にも演奏する人は
100人にも満たないのでは？」

てアンサンブルが出来るようにしたことなんです。編成はその後、七重奏にまで拡大されて、演奏旅行も行っています。

――オカリナが発明されて、すぐに演奏旅行ですか。

G　メッツェッティやドナーティは、オカリナを作ると同時に演奏も行いました。彼らも参加してブドリオ人によるオカリナ合奏団が結成されたんです。1869年にローマなどイタリア国内のツアーを行い、その後ウィーンやパリ、ロンドン、ベルリン、マドリッド、リスボンなどヨーロッパ各地で演奏しています。ブドリオ市には今もオカリナ博物館があり、そこに当時の演奏会批評などが残っています。

彼らが精力的に各地で演奏を行ったことで、オカリナは世界各地に広がって行きました。例えば1880年代のウィーンでは、ハインリッヒ・フォーンという人がブドリオ合奏団の演奏に感銘を受けて、自分でも作り始めました。

――それにしても、いろんなオカリナがあるんですね。

G　この白い陶器のオカリナはドイツのマイセンで作られたもので、日本では今回初めて披露されるのではないかと思います。この金属のオカリナは、マティユというフランス人が1890年代に作ったもので珍しいもの。メッツェッティが作ったオカリナもあります。メッツェッティはアルベルトとエルコレという兄弟でオカリナを作り、販売しました。ここにある縦型のオカリナ、これはハッキオーニが作ったもの。縦型のオカリナは珍しいですが、これは現代の製品で、やはりボローニャで製作しています。

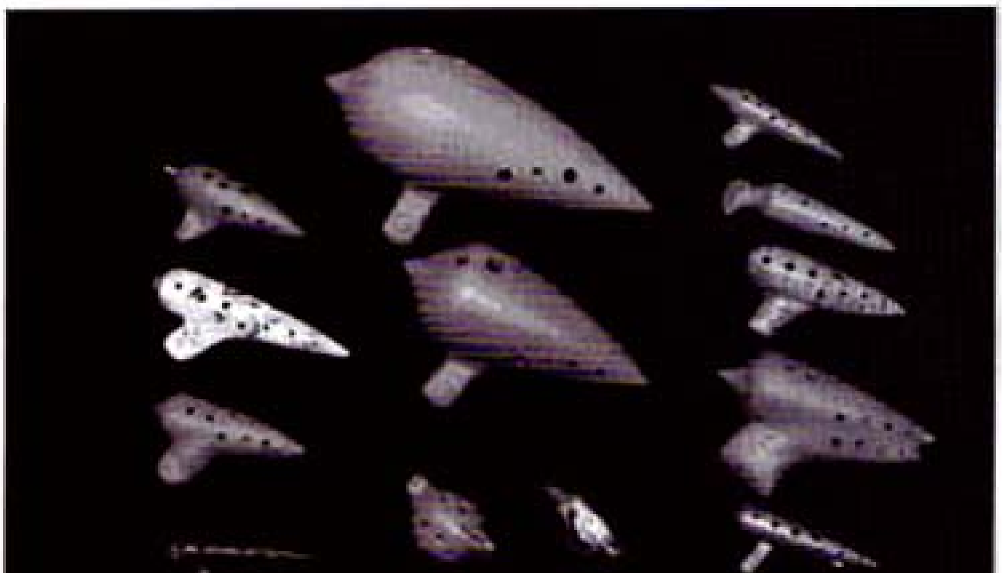
これはダブルオカリナです。やはりハッキオーニが製作したもので、音域を広くし、音を重ねて出すことが出来ます。

――ダブルオカリナはどんな仕組みなのですか。

G　二つの管を持っています。オカリナは一つの管では音域が狭い。次の音だけしか出が出ませんから、管を二つにして穴の数

マティユというフランス人の製作者によって1890年代に作られた金属製の珍しいオカリナ。

陶器の人形や器で有名なドイツのマイセンで作られたオカリナ。日本で披露されるのは今回が初めてだろうとガッリアーニ氏は言う。



ガッリアーニ氏が収集した世界の様々なオカリナ。右列上から2番目がハッキオーニ作の縦型オカリナ、下から2番目がやはりハッキオーニ作のダブルオカリナ。